

ThreeBond



2025 ALL JAPAN

SUPER FORMULA CHAMPIONSHIP

RACE REPORT



Round.5

AUTOPOLIS



荒天の末、光明は差したのか

2025年全日本スーパーフォーミュラ選手権シリーズ第3大会(第5戦)が、5月17日(土)～18日(日)にかけて、大分県オートポリス・インターナショナルレースコースで開催された。

鈴鹿での開幕大会、もてぎでの第2大会とも、1大会2レース制で開催されたが、今回の第3大会は、土曜日にフリー走行と公式予選、日曜日に決勝レースというフォーマットとなっている。

開幕前テストでは好タイムを記録していたが、開幕大会、第2大会とも思い通りの結果が残せなかったチームは、車両及びセッティングやマシンの組み付けに至るまで改めて見直し、土曜日午前中のフリー走行で確認しながらマシンを仕上げる予定だった。しかし、土曜のオートポリス周辺は風雨と霧に見舞われ、競技車両の走行は不可能なコンディションとなって、土曜日の走行セッションはすべてキャンセルとなった。

Round.5 公式予選

持ち込んだ車両を走らせる機会が全く無いまま、土曜日のフリー走行と公式予選がキャンセルになったため、スケジュールが改定され、日曜日午前 9 時 40 分から、40 分間の予定で計時予選が行われることになった。チームはここで、持ち込み車両の状態をチェックすると共にタイムアタックを行ってスターティンググリッドを手に入れなければならない。

曇り空、路面はドライコンディションで薄く霧がかかっている状況でセッションは始まった。三宅選手は3回にわたり走行してタイムアタックをしてはピットに戻りマシンに微調整を加えた。タイムは徐々に上がり、12 周目には 1 分 28 秒 292 を記録してピットへ戻り、最後のタイムアタックに備えた。この時点で三宅選手の順位は 16 番手。セッション残り 5 分となったところで全車ニュータイヤを履いてコースへ雪崩れ込み、最後のタイムアタックが始まった。4 セット目のタイヤを装着した三宅選手はこれまでのタイムアタックを上回るペースで走り、タイム更新が期待されたが、セッション終了直前にコース上でスピンして停止した車両が生じたためコース上には黄旗が提示されてしまった。三宅選手は黄旗提示直前にコントロールラインを通過してタイムを更新したように見えたが、黄旗提示区間での通過となり、タイムは無効となり、順位は 12 周目に記録した 1 分 28 秒 292 により、ポールポジションから 1 秒 369 遅れの 18 番手となった。

Pos	No	氏名/予選タイム
1	16	野尻 智紀 / 1' 26.757
2	3	山下 健太 / 1' 26.803
3	7	小林 可夢偉 / 1' 26.928
18	12	三宅 淳詞 / 1' 28.292



Round.5 決勝

日曜日、午後1時35分から特別に20分間のウォームアップ走行セッションが設けられ、ロングランに向けた確認走行が行われたが、その頃から上空の雲が厚くなり雨粒も落ち始めるなど天候悪化が懸念される状況となった。しかし全車スリックタイヤを装着して午後2時42分、決勝レースが始まった。

他車のペナルティーによるグリッド降格を受け、17番手スタートの三宅選手はうまく加速、ポジションを上げ掛かったが、前方グリッド上で加速が劣った車両を避けているうちに後方からのオーバーテイクを許し、1コーナーに飛び込んだ時点では16番手にてレースを始めることになった。

このレースでは、タイヤ交換義務を消化するためのピットインは1周を走行した段階から許されるので、早々にピットインする車両が生じ、三宅選手の順位は3周目には14番手に繰り上がった。しかし、三宅選手とチームは無線で早めのタイヤ交換を行って、いわゆるアンダーカット作戦を取ろうと決断して4周走行時点でピットに飛び込み、タイヤ交換を行ってコースへ復帰した。

ニュータイヤを装着してコースに復帰した三宅選手は、交換したタイヤが温まると先頭争いをしている車両と同じレベルの1分31秒台で走行、作戦通りペースアップした。しかし、ハイペースは続かず、数周でタイヤ消耗が急激に進んでペースが落ち、逆に苦しい走行を強いられることになった。

事実上の17番手を走行することになった三宅選手は、19周目にコース上の停止車両を回収するためセーフティーカー(SC)が介入した段階で無線を使ってチームと相談。予定になかった2回目のタイヤ交換を決断。22周を走った段階でピットイン、タイヤ交換をしてSCランに復帰した。この時点で三宅選手の順位は19番手となっていた。

26周目に、前を行く10号車をオーバーテイク、27周目には上位を走っていた15号車がリタイアしたため、順位は17番手に繰り上がった。しかし交換したタイヤの消耗が予想以上に進みペースが上がらなかったため、レース終盤には2台のオーバーテイクを許さざるをえず、三宅選手は19位でチェッカーフラッグを受けることになった。尚、正式順位は他車のペナルティーにより18位となった。



ドライバー:三宅淳詞 コメント

土曜日に走れないまま日曜日に 40 分の計時予選となりましたが、オートポリスの予選は、過去を見ても赤旗中断が多いので、そこに引っ掛からないようにタイムを出すことが大事だと思いながらタイムアタックしました。しかし、やはり最後に他車のアクシデントがあって、タイムを出し切れないで終わりました。これは他の選手もみんな一緒ですが。

決勝では、僕たちは早めにタイヤ交換をしましたが、SC が入ってライバル勢はそのタイミングでピットインにてタイヤ交換したので、僕が早く入ったメリットがあまりなくなっていました。むしろ走っているうちに僕のタイヤが厳しくなってしまう、なので順位も順位だし、失うものはないから、もう 1 回ニュータイヤに換える 2 回目のタイヤ交換を決断しました。でも、結局ペースが上がらずロングも厳しい状況でした。予選はともかく決勝は、ただ走り切るだけのレースになってしまったことが残念です。次の大会までに合同テストがあるので、そこで原因を見つけられるようにします。エンジニアさんも真剣に原因を考えてくれているので、僕もテストでしっかりクルマを仕上げようと思います。



監督:塚越広大 コメント

前回のもてぎから、改めて色々とセッティングを見直して臨みましたが、土曜日は天候不良のために走って確かめられませんでした。ワンデーというイレギュラーなスケジュールで行われた予選では、きちんとタイムアタックができていれば、もう少し前のグリッドに行けたかなという感覚もありました。

決勝に関しては、正直まだまだパフォーマンスが足りず、タイヤ交換した後、少し良さそうな時間帯があったのですが、レースが進むにつれて厳しくなっていました。マシンにはまだまだ改善する余地がありそうです。次は富士スピードウェイで合同テストがありますから、そこでここまで 3 大会で浮かび上がった課題をしっかりと見直してリセットをしたいと思います。そのためにも、まずは合同テストに向けてしっかり準備します。



トラックエンジニア:一瀬俊浩 コメント

今回、土曜日に走行できなかったので持ち込みのセッティングを確かめることができず、少し外れた状態で計時予選に入ってしまった可能性はあります。それで後方順位になってしまいましたが、最後のタイムアタックは良い感触で、もっと順位が上がりました。それでもトップとは 1 秒程度の差があって 12、3 番手だったのでしょうか。それを考えると、順位は上がってもタイム差は前の 2 大会とあまり変わっていないところが悩ましい限りです。

決勝のペースも予選と変わらず、デグラデーションも大きいような感じで、差が開いてしまいました。セッティングを変えればそれなりに反応はするのですがタイムは変わらない。何か本質的な部分に問題があるように感じています。次の合同テストで一旦リセットできますので、ここまで良くなかった部分、セッティングや車両本体について確認しながら、いろいろトライして、後半戦に浮上するきっかけを掴みたいです。思い切って色々大きく試して見るつもりです。





Round.5 レース結果

Pos	No	Driver	Team	Time
1	1	坪井 翔	VANTELIN TEAM TOM'S	1:07' 24.070
2	16	野尻 智紀	TEAM MUGEN	1:07' 25.174
3	3	山下 健太	KONDO RACING	1:07' 28.464
4	64	佐藤 蓮	PONOS NAKAJIMA RACING	1:07' 30.342
5	38	阪口 晴南	SANKI VERTEX PARTNERS CERUMO・INGING	1:07' 37.353
6	5	牧野 任祐	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	1:07' 55.939
7	7	小林 可夢偉	Kids com Team KCMG	1:07' 57.365
8	65	イゴール・オオムラ・フラガ	PONOS NAKAJIMA RACING	1:07' 58.822
9	8	福住 仁嶺	Kids com Team KCMG	1:07' 59.936
10	39	大湯 都史樹	SANKI VERTEX PARTNERS CERUMO・INGING	1:08' 00.264
11	20	高星 明誠	ITOCHU ENEX WECARS TEAM IMPUL	1:08' 00.769
12	28	小高 一斗	KDDI TGMGP TGR-DC	1:08' 01.156
13	6	太田 格之進	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	1:08' 03.192
14	19	オリバー・ラスムッセン	ITOCHU ENEX WECARS TEAM IMPUL	1:08' 06.415
15	14	大嶋 和也	docomo business ROOKIE	1:08' 07.534
16	29	平良 響	KDDI TGMGP TGR-DC	1:08' 08.412
17	37	サッシャ・フェネストラズ	VANTELIN TEAM TOM'S	1:08' 09.751
18	12	三宅 淳詞	ThreeBond Racing	1:08' 12.558
19	10	ジュジュ	HAZAMA ANDO Triple Tree Racing	1:08' 18.303
20	50	小出 峻	San-Ei Gen with B-Max	1:08' 21.539
DNF	15	岩佐 歩夢	TEAM MUGEN	44' 37.009
DNF	4	ザック・オサリバン	KONDO RACING	27' 54.621





順位	ドライバー	合計	Rd.1	Rd.2	Rd.3	Rd.4	Rd.5	Rd.6	Rd.7	Rd.8	Rd.9	Rd.10	Rd.11	Rd.12
			鈴鹿	鈴鹿	もてぎ	もてぎ	AP	富士	富士	SUGO	富士	富士	鈴鹿	鈴鹿
1	牧野 任祐	65	1	20	3+20	1+15	5							
2	太田 格之進	61	1+20	1+0	2+15	2+20	0							
3	坪井 翔	51	8	15	8	0	20							
4	岩佐 歩夢	41	2+15	2+11	0	11	0							
5	野尻 智紀	39	3+4	3+8	2	1	3+15							
6	佐藤 蓮	24	11	5	0	0	8							
7	イゴール・オオムラ・フラガ	23	0	6	1+11	2	3							
8	山下 健太	22	2	0	4	3+0	2+11							
9	阪口 晴南	22	5	0	5	6	6							
10	小林 可夢偉	13	6	2	-	-	1+4							
⋮														
-	三宅 淳詞	0	0	0	0	0	0							

順位	チーム	合計	Rd.1	Rd.2	Rd.3	Rd.4	Rd.5	Rd.6	Rd.7	Rd.8	Rd.9	Rd.10	Rd.11	Rd.12
			鈴鹿	鈴鹿	もてぎ	もてぎ	AP	富士	富士	SUGO	富士	富士	鈴鹿	鈴鹿
1	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	116	1+20	20+0	20+15	15+20	5+0							
2	TEAM MUGEN	67	15+4	11+8	0+2	11+1	0+15							
3	VANTELIN TEAM TOM'S	62	8+0	15+0	8+3	0+8	20+0							
4	PONOS NAKAJIMA RACING	46	11+0	5+6	0+11	0+2	8+3							
5	SANKI VERTEX PARTNERS CERUMO・INGING	31	5+0	0+4	5+0	6+4	6+1							
6	Kids com Team KCMG	23	6+0	2+0	0+6	3+0	4+2							
7	KONDO RACING	20	2+3	0+0	4+0	0+0	11+0							
8	docomo business ROOKIE	7	0	1	1	5	0							
9	San-Ei Gen with B-Max	3	0	3	0	0	0							
-	HAZAMA ANDO Triple Tree Racing	0	0	0	0	0	0							
-	ThreeBond Racing	0	0	0	0	0	0							
-	ITOCHU ENEX WECARS TEAM IMPUL	0	0+0	0+0	0+0	0+0	0+0							
-	KDDI TGMGP TGR-DC	0	0+0	0+0	0+0	0+0	0+0							

